

東京言語研究所 公開講座

チョムスキーと言語脳科学

<講師> 酒井 邦嘉氏 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

<日時> 2020年5月23日(土) 14:00~17:00

<会場> 東京言語研究所

(新宿区大久保 1-3-21 新宿T×ビル2階 ラボ教育センター内)

<参加費> 一般 2,000 円

学生, ラボ・チューター 1,500 円

* 2020年度理論言語学講座受講生は 1000 円

※参加費は当日現金でお支払下さい。

定員
50名

<申込み> 「ホームページ申込みフォーム」、もしくは「FAX(HPよりダウンロード)」でお申し込みください。4月1日より申込開始

- ①公開講座受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦ Eメールアドレス ⑧区分 (2020年度理論言語学講座受講生・一般・学生)
- ⑨所属 (大学生・大学院生・教員・会社員・その他)

(上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。)

講師
略
歴

1992年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。1992年東京大学医学部 助手、1995年ハーバード大学 リサーチフェロー、1996年マサチューセッツ工科大学 客員研究員、1997年東京大学大学院総合文化研究科 助教授・准教授を経て、2012年より現職。同理学系研究科物理学専攻教授兼任。2014年より日本学術会議連携会員。2002年第56回毎日出版文化賞、2005年第19回塚原仲晃記念賞を受賞。専門は言語脳科学で、人間に固有の脳機能をイメージング法などで研究している。著書に『言語の脳科学』『科学者という仕事』『科学という考え方』(中公新書)、『脳の言語地図』『ことばの冒険』『こころの冒険』『脳の冒険』(明治書院)、『脳を創る読書』『考える教室』(実業之日本社)、『芸術を創る脳』『高校数学でわかるアインシュタイン』(東京大学出版会)、『チョムスキーと言語脳科学』(インターナショナル新書)などがある。

問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル2階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講演要旨
は裏面へ

【講義要旨】

すべての自然言語には共通の基盤があり、言語機能は生得的だとする「生成文法理論」は、どのような意味で正しいのか。チョムスキー理論の核心となる「普遍文法」の実体である「木構造」や「再帰性」についてわかりやすく説明し、さらに「文法中枢」が脳内に存在することを、言語脳科学の実証実験によって明らかにする。

チョムスキーの代表的な著作である『統辞構造論』（Chomsky, 1957; 福井・辻子 訳, 2014）によれば、統辞論（syntax）は、「個別の言語において文が構築される諸原理とプロセスの研究」であり、「その言語の文を産み出す装置と見なせるような文法の構築」が研究の目標である。言語理論の妥当性は、「単純で啓発的な（simple and revealing）文法」を構築できるかで判断される。

普遍文法が生得的に備わっていることは、「話し手がうける刺激と、それによって発する反応を観察しているだけでは、ヒトが発話のより所に行っている精妙で複雑な文法規則を解明することはできない」（Cogswell, 1996; 佐藤 訳, 2004, p.64）という事実から明らかである。既にフンボルト（Wilhelm von Humboldt, 1836）は、「言語を本当の意味で教えるということは出来ないことであり、出来ることは、言語がそれ独自の方法で心の内で自発的に発展できるような条件を与えることだけである」（Chomsky, 1965; 福井・辻子 訳, 2017, p.127）と述べている。さらに、普遍文法が言語の入力と出力に対し中立であって、新しい組み合わせを生み出す機能を持つことを議論したい。